



学年に応じた地図作りで 「地図化」する力を育てる ～環境地図作品作りへのチャレンジ～

はじめに

現行の学習指導要領から、地図表現力よりも地図読解力の育成が優先されるようになりました。地図を通じて社会の様相を把握し諸課題を解決する力は、社会科における問題解決学習には欠かせません。また、地図を作る学習は、地図の基本概念や技術を習得させる機会につながり、ひいては地図読解力を高めていくことにもつながります。そこで、各学年における地図作りを通じた系統的な学習について、本校の実践事例を基に紹介します。

地図作りに関連した系統的な学習の紹介

本校では低学年から地図に親しむ活動を取り入れています。例えば、1年生では生き物マップ作りや樹木マップ作りを行います。**図1**のような校内地図を作成し、地図上に調べたことをまとめ

各学年の地図学習の取り組み

- 低学年での活動
 - ・校内の生き物マップ作り
 - ・校内の自然マップ作り
 - ・校内および学園内ウォークラリー
- 3年生社会科
 - ・身近な地域の環境の地図作り
- 3年生以降（夏休み）
 - ・環境地図作品作り

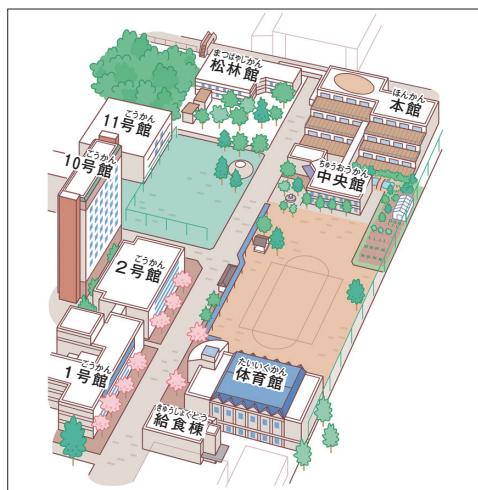


図1
低学年で
使用する
校内地図

ていきます。

2年生では小学校や学園内の敷地内を範囲として地図を片手にウォークラリーを行ったりしています。このウォークラリーでは、「自分のいる場所ゲーム」や、「宝探しゲーム」をしていきます。地図上で自分のいる位置や場所を把握したり、建物の大きさや高さの感覚をつかませたりする学習です。こうするなかで地図に親しみ、地図で遊ぶといった学習の機会を作っています。

成蹊小学校の取り組み 3年生

3年生では、地域の環境をテーマにした地図作りの学習に取り組んでいます。「樹木からみる武蔵野市のうつりかわり」の実践は、地図に示されている樹木（雑木林・桑畠）の地図記号から、市の土地利用の変化をとらえ時間と空間の移り変わりを考えていく学習です。単元の内容は**表1**の通りです。

表1 単元の内容
「樹木からみる武蔵野市のうつりかわり」

小単元	内容	時数
地図記号の学習 土地利用図の色塗り	<ul style="list-style-type: none"> ・地図記号を知ろう ・地図の土地利用ごとに色塗りをしよう 武蔵野市の140年前、90年前と、現在の土地利用図を色塗りして、土地利用の変化を比較する 	3時間
学校周辺の樹木の調査	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の周りのフィールドワーク 学校近くの桑の木を見つけながら、市内の土地利用の様子を観察する。地域の方にインタビューをして、桑の木や雑木林がなくなった理由について調べる。 	4時間
地図の作成 発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたことを班ごとに地図にまとめ、発表する (写真、調べたこと、雑木林・桑畠の分布図) 	4時間

地図作りにフィールドワークは欠かせません。テーマをもってフィールドワークに出掛け、身近な地域を調べたのちに、地図を作るという活動は

●成蹊小学校社会科部
教頭 内川 健 赤池 洋一
井田 智子 市川 敦
尾崎 伸宏 長谷川 真子
廣瀬 大二郎 矢島 清子



写真1 現地調査の様子



写真2 インタビューの様子



成蹊学園サステナビリティ大賞



写真3 班ごとの地図作り



写真4 班で作成した地図

結果的に探究的な活動につながります。さらに、地図を作成する過程では、グループごとの積極的な対話から地図表現のアイデアや工夫が生まれてもきます。地図を資料としていかに活用しようかと話し合いながら友達と交流していく学習は、子どもの「地図化する力」を育むためには欠かせないものだと感じています。

手作り地図作成マニュアル

本校では3～6年生向けに、夏休みの自由研究のテーマの一環として、環境地図作品の作成を推進しています。グループもしくは個人で取り組み、毎年30～40作品が提出されます。環境地図のテーマの設定や調査・地図表現の方法については、社会科の教員を中心に事前指導やアドバイスを行うようにしています。しかし、実際に一人で地図

を作るのは難しく、さらには、夏休みの活動になるためご家庭からの協力も必要となる場合があります。そこで、「手作り地図作成マニュアル」を校内で作成しています。地図の作り方の手順や調べた情報のまとめ方について解説しており、家庭での地図作りの一助になるようにしています。

環境地図作品作りを通じて 対話的な学びの場を

毎年、夏休みの自由研究で提出された環境地図作品を、全国や学園内で開催される地図作品コンクールに応募しています。本校の環境地図作品は、防災や防犯、植物や生き物に関わること、ごみの収集やバリアフリーなどのテーマが多いです。地図作りに取り組んだ児童からは、「地図にすると、調べたことがまとめやすくて取り組んで良かった」といった感想が出てきています。地図作品作りは学校の授業で学んだ地図作りの方法や考え方を生かす機会になっています。

地図作りは時間も手間もかかりますが、地図にどのようなことを表そうか、といった考える面白さもあります。授業で地図作りを体験した子ども達は、自分の考えをまとめる際の表現方法の一つとして地図を活用するようになっていきます。地図を見ていると楽しい、地図って役に立つな、という気持ちを涵養しつつ、地図を通して児童の社会を見る目を育てていきたいと考えています。



図2 成蹊小学校作成の「手作り地図作成マニュアル」